

青花 せいか かわらばん 瓦版

2007年5月25日発行 通巻第92号
発行 佐賀県 西松浦郡 有田町 黒牟田 しん窯青花
電話 0955-43-2215 FAX 0955-43-2889
URL <http://shingama.com/shingama.html>
E-Mail Address seika@po.saganet.ne.jp
発行責任者 梶原茂弘

第九拾貳号

大有田焼フェア

6月5日(火)～10日(日)
日本橋三越本店 本館7階催物会場にて

恒例の三越大有田焼フェアも第9回目を迎え
次回10回記念へ向かって「気」と「力」を入
れています。しん窯コーナーも設けられて、伝
統工芸士集団の出番です。前半(6月5日～6
日)は角康則が、後半(8日～10日)は橋口
博之が、会場でお客様をお待ちしています。

また、今回は有田町も観光PRを兼ねて商工
観光課から出張します。特に、春と秋の陶器市
や陶磁器まつりの他に、有田ひいなのみつりな
ど大々的にPRされます。

初めてしん窯青花やすのり作の大型ひな人形
のお内裏さまとおひなさまの1組が披露されま
す。お客様の反応が今から楽しみです。



橋口展 in 福岡三越

専務の橋口博之が、8月21日(火)から27日(月)まで福岡三越さんで作陶展を
開かせていただきます。長崎大島でオーベルジュを経営されているあかだまさんが25
日(土)と26日(日)共演して下さいます。あかだまのオーナーシェフ中村さんと橋
口は年齢も近く、料理と器のコラボで良いパートナーとして付き合っていていま
す。最強コンビで発展中の福岡で初作陶展を開きますが、有田に訪れて下さるお客様に
どのように映るか不安もありますが、期待しています。新作が中村さんの料理の腕でど
のように変身するか、楽しみな企画です。

第20期に向けて

しん窯は小さくても会社組織です。天保元年（1830年）創業し、平成元年（1989年）に法人化して、すでに今月末19期決算を迎えます。やきもの離れが進むなかで、必死につくる事・売る事の難しさを改めて体験しています。

来月から20期に突入します。職人さんを大切にしながら、手技と利益追求との狭間で悩み苦しんでいます。窯元のおやじとして、経営者として、日々生成発展していく事は当然の使命です。しかし、経営は生き物と言われるように、日々変化していきます。じっくり構えたり、即断即決を迫られたり、柔軟に対応していかなければなりません。毎日決断をしなければならない場面に遭遇します。将来の夢に向かって近づくように、またその夢を職人さんと共有できるように、コミュニケーション活動は欠かせません。有田焼も少量生産、味わい志向、個性的な方向へ進んでいくと思います。しかし、集団から個人へ移行してしまうと、産地として形成する事が難しくなっていきます。有田焼400年の伝統を支えてきたものは職人技であり、分業化による役割分担が組織化されていたからでありましょう。少量化の中でますます極少量化になれば、必然的に陶石業者や陶土業者も淘汰され、ひいては廃業せざるを得なくなってしまいます。原材料の有無は有田焼産地の死活問題です。陶石が枯渇しているのではなくて、採掘する人手不足が問題になっています。今後、陶石屋さん・陶土屋さん和懇談会を開き、来る2016年の400年祭へ向けて有田焼存続と繁栄の約束をしなければいけません。久しぶりに緊張感を持って話し合いに臨みたいと思います。

中年の星と言われるプロゴルファーの中島常幸氏がテレビのインタビューで、
過去の栄光は忘れろ
スランプを楽しめ

と言われました。落ち込んでいる私達はハッとして勇気付けられました。第20期の指針にしていきたいと思います。

職人さんのひとりごと - 細工場チームリーダー

~ 第8回・田中啓文さん ~

全国の皆さん、この顔にピンときたら、食器棚にあるロクロ体験の時の器を取り出して下さい。あの時、真剣な顔をして器づくりに取り組んだ事を思い出してもらえれば幸いです。



平成12年に始まったロクロ体験も、最近は国内外を問わず多くの方々に体験してもらっています。ロクロ成形した器は、登り窯で約20時間かけて焼成します。薪で焚く窯で、火入れから火を止める決断をするまで、誰かが薪を焚き続けなければいけません。その後1週間ほどかけて冷やして、皆さまの元へお届けする事になります。

今日は、ロクロ体験の事を思い出して、食事を楽しんで下さい。